

ひとひと 女と男 パートナーシップ

問合せ先 企画課男女共同参画推進係 ☎72-2111内線222

ピンクは女の子の色？

ピンク色の傘の忘れ物があったとします。皆さんは、この傘の持ち主はどんな人だと思いませんか？女性を想像した人は、「ピンク色=女性の色」というイメージができてあっているかもしれません。

日本では子どものころから、さまざまな場面で性別に対するイメージが形成されます。しかし、そのイメージにとらわれすぎると、個性や自由のない、生きにくい社会になってしまいます。今回は、子育てや教育の場面でとらわれがちな、男女のイメージについて考えてみましょう。



こんな意識を持っていませんか

①男の子には青や緑、女の子には赤やピンク



▶持ち物や服装など、性別によって色を決めつけていませんか。好きな色や似合う色など、子どもが自由に選ぶことも大切です

②男の子は元気で、女の子はおしとやかであるべきだ



▶「男の子だから」「女の子だから」という理由よりも、子ども自身の性格を大事にしましょう

③将来は、女の子らしい仕事に就いてほしい



▶男女の体力差などを考慮することも大切ですが、まずは子どもの意思や興味を尊重し、応援しましょう

④男の子は、料理や裁縫ができなくても仕方ない



▶男の子も女の子も、自分の身の回りのことは自分でできるよう、子どものうちから経験する機会をつくりましょう

男女のイメージを強制することは、子どもの自由な感性を妨げるだけでなく、本人の意思に合わない価値観を押し付ける可能性もあります。子どもたちが「男の子らしさ」「女の子らしさ」に縛られることなく「自分らしさ」を大切にできるような社会を築いていきましょう。

おごおり女性ホットライン
☎092-513-7337

月～金曜日 / 午前10時～午後5時
(祝日、12月29日～1月3日を除く)

配偶者や恋人からの暴力についての相談のほか、セクシュアル・ハラスメントや仕事、地域、家庭のことなどさまざまな悩みに専門の相談員が対応します。



配偶者や恋人からの暴力に悩んでいませんか？
ひとりで悩まずに相談してください。

